

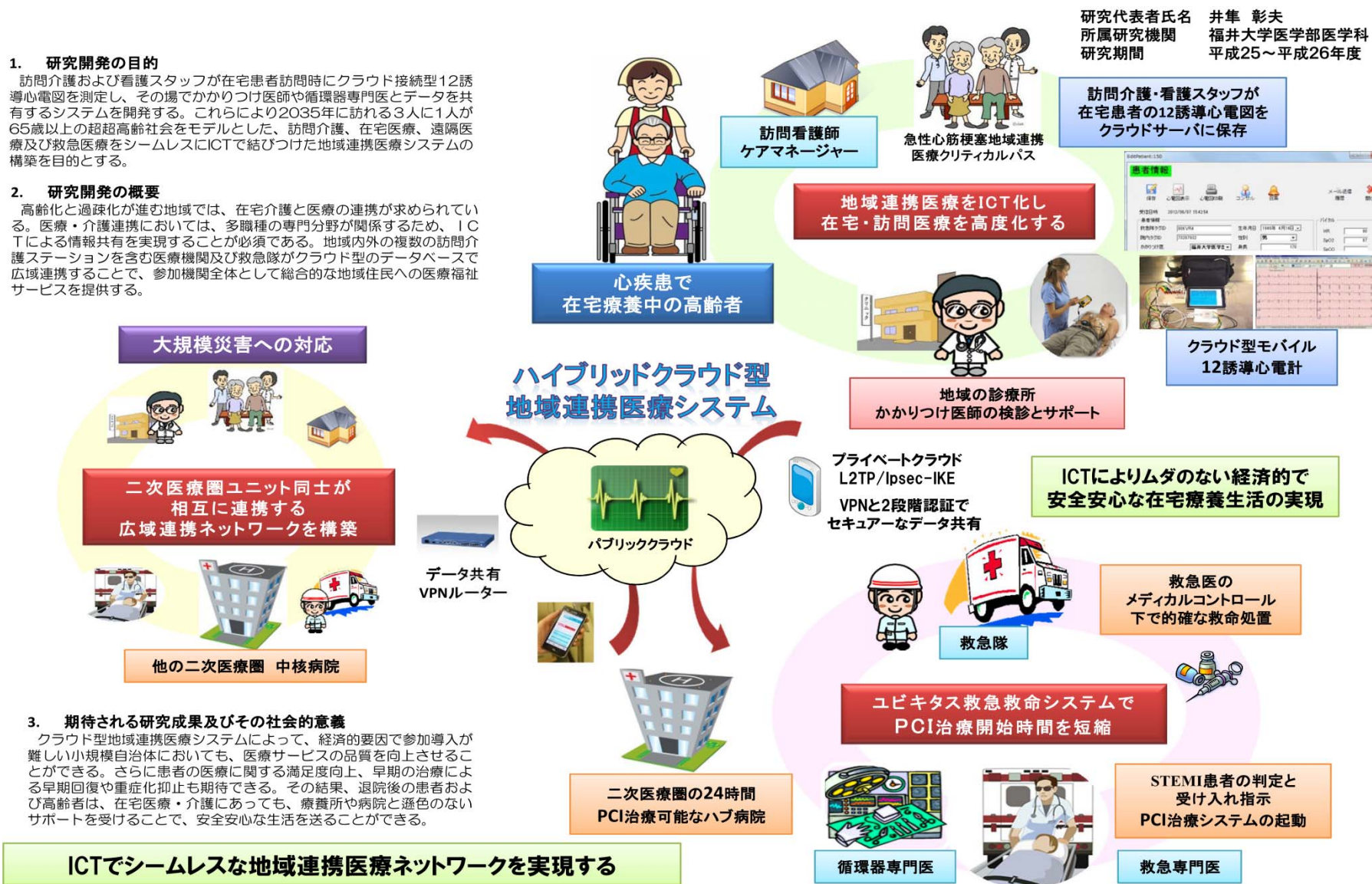
研究開発課題名 在宅医療に向けたクラウド型地域連携医療システムの研究開発

1. 研究開発の目的

訪問介護および看護スタッフが在宅患者訪問時にクラウド接続型12誘導心電図を測定し、その場でかかりつけ医師や循環器専門医とデータを共有するシステムを開発する。これらにより2035年に訪れる3人に1人が65歳以上の超高齢社会をモデルとした、訪問介護、在宅医療、遠隔医療及び救急医療をシームレスにICTで結びつけた地域連携医療システムの構築を目的とする。

2. 研究開発の概要

高齢化と過疎化が進む地域では、在宅介護と医療の連携が求められている。医療・介護連携においては、多職種の専門分野が関係するため、ICTによる情報共有を実現することが必須である。地域内外の複数の訪問介護ステーションを含む医療機関及び救急隊がクラウド型のデータベースで広域連携することで、参加機関全体として総合的な地域住民への医療福祉サービスを提供する。



3. 期待される研究成果及びその社会的意義

クラウド型地域連携医療システムによって、経済的要因で参加導入が難しい小規模自治体においても、医療サービスの品質を向上させることができる。さらに患者の医療に関する満足度向上、早期の治療による早期回復や重症化抑止も期待できる。その結果、退院後の患者および高齢者は、在宅医療・介護にあっても、療養所や病院と遜色のないサポートを受けることで、安全安心な生活を送ることができる。